

年度	平成16～18年度
----	-----------

基本目的 9 行政機能が高くなる

行動目標 9-3 行政活動の財政基盤を強化する

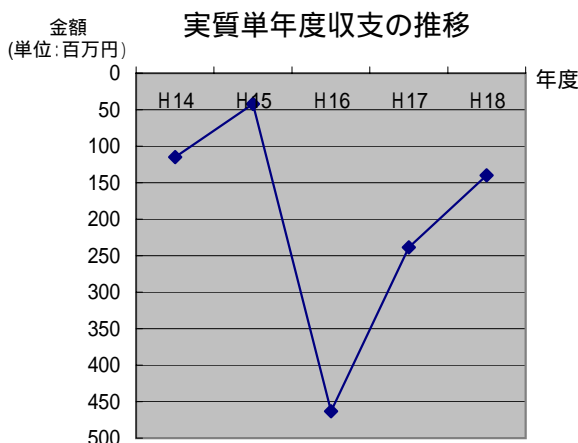
(所管課名 商工農水部けいりん事業課)

任務 事業の収益性を高め、実質収支が安定的に黒字となるよう、経営改善に努める

任務の成果・活動指標の推移

実質単年度収支額 (単位:千円)

H14実績	114,908
H15実績	42,061
H16実績	463,262
H17実績	238,534
H18目標	140,000



指標の説明

公営競技の一つである競輪事業においては、地方財政の健全化を図ることを目的として事業を展開しており、目的達成には、まず競輪事業における実質単年度収支を黒字化する必要があることから、単年度における競輪事業分だけの収入・支出の差し引きである実質単年度収支を指標として掲げています。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

平成14年度からナイトー競輪を一部実施し、平成15年度より本格的に実施するとともに、平成15年度においては、特別競輪である「ふるさとダービー」を誘致し、さらに平成16年度においては、全日本プロ選手権の開催を行った。

また、積極的な場外発売の依頼や企画競輪の実施、さらに新規ファン開拓のための初心者教室を開催するなど、車券の売上向上策を積極的に展開しました。

一方、ファンバス等のファン対策経費や広告宣伝や看板掲出等の広告宣伝費を費用対効果の検証を行い、必要最低限のとどめるなど、経営改善に努めました。

効果については、平成16年度においては、赤字が大きく拡大したものの、平成17年度においては、多少縮小する見込みであり、全国競輪場の車券売上が、平成12年度から平成16年度にかけての対前年度比(平均)7.2%の減となっているのに対して、本市におきましては、1.9%の減にとどまっていることから、特別競輪の誘致やナイトー競輪実施等の効果がある程度出ているものとなっておりますが、競輪事業を取り巻く環境については、構造的な問題もあり、今後さらに厳しい状況が続くものと予想しております。

平成18年度

平成18年度においては、競輪事業についてのより一層の経営努力を図るとともに、今後のさらに厳しい状況を見据え、集中改革プランの改革項目にも掲げる中で、平成18年2月28日に「四日市競輪の今後のあり方検討委員会」を立ち上げ、平成18年度において、競輪事業の存廃を含めたあり方について検討を実施します。

これからの課題、施策等展開の方向性

現在実施しています「四日市競輪の今後のあり方検討委員会」の答申を踏まえ、これからの課題、施策等展開の方向性を決めていきます。